

2023年度 講義要綱

科 目	コミュニケーションⅡ 必修 2単位 講義		講 師	木下 裕子
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての必要な基礎力を高める。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目4コマ) 			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての必要な知識やスキルを修得し、実践の場で生かそうとする。 ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・書店における絵本の売り場作りの特性について理解する。絵本の流通について理解する。(認定:「絵本と出会う④」関本練) ・絵本が大人に与える影響について理解する。(認定:「大人の心を豊かにする絵本」細江幸世) ・絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する。(認定:「ホスピタリティについて学ぶ」近藤学) ・認定絵本士養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議することにより、認定絵本土としての役割や行動すべき子とを理解する。(認定:「ディスカッション」鈴木八重子) 			
到達目標1	認定絵本土養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	保育者に必要とされるコミュニケーション力と、社会人として必要な常識をもち卒業後の将来に向けた具体的な行動ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
授業方法	・コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 クラス活動(1) 3 就職に向けて(1) 4 認定絵本土養成講座科目(1)「絵本と出会う④」担当:関本練 5 クラス活動(2) 6 クラス活動(3) 7 認定絵本土養成講座科目(2)「大人の心を豊かにする本」担当:細江幸世 課題提出 8 認定絵本土養成講座科目(3)「ホスピタリティに学ぶ」担当:近藤学 9 就職に向けて(2) 10 就職に向けて(3) 11 クラス活動(4) 12 クラス活動(5) 13 就職に向けて(4) 14 クラス活動(6) 15 クラス活動(7) 16 オリエンテーション 17 就職に向けて(5) 18 就職に向けて(6) 19 就職に向けて(7) 20 就職に向けて(8) 21 就職に向けて(9) 22 認定絵本土養成講座科目(4)「ディスカッション」担当:鈴木八重子 23 クラス活動(8) 24 就職に向けて(10) 25 クラス活動(9) 26 クラス活動(10) 27 クラス活動(11) 28 クラス活動(12) 29 クラス活動(13) 30 クラス活動(14) 			
必須テキスト	【認定絵本土科目】認定絵本土養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	木下裕子:クラス担任、実務経験のある教員 【認定絵本土養成講座担当講師】 ○関本練:書店における絵本の売り場作り、及び、絵本の流通に出版に精通した者 ○細江幸世:絵本作家、絵本研究家、絵本をめぐる活動に精通した者 ○近藤学:子ども達を対象とした商業施設の従事者 ○鈴木八重子:講座責任者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科目	保育と外国語	必修 2単位 講義	講師	金藤 明美
授業概要	コミュニケーションを意識しながら、保育現場で幼児に語り掛ける様々な英語表現、幼児と一緒に楽しめる英語の歌や様々な活動、さらには初対面での基本的な英会話などを、机上では学びにくい生きた英語を体験する。また、保育士にとって興味深い情報のシェアをする。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で使う基本的な英会話の繰り返し練習を通して使える表現を習得する。 ・保育現場で使える英語の歌・活動の体験を通して、幼児と行える術を得る。 ・自己紹介・Show and Tell・絵本読みなどを通して英語の発表の体験をし、幼児教育に活かす。 ・保育士にとって有益な情報のシェア 			
到達目標1	実践英語力の学びと習得 <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で使える必要最低限の英語表現の習得 ・幼児と楽しめる英語の歌・活動の体験習得 ・保育士自らが、自己紹介・Show and Tell・絵本の読み聞かせを体験することで、将来幼児たちと一緒に実践する自信を得る。 上記を通して、楽しい体験的な英語の学び方への気づきを経て、継続的な学びへつなげる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	①試験:筆記【60点】 口頭【40点】 ②発表:自己紹介(ミニブック提出含む)【50点】 Show and Tell 【30点】 絵本読み聞かせ 【20点】 ①、②のそれぞれの合計点を100とし、その2つの平均点を最終得点とする。 ※出席・授業態度は加点対象	
到達目標2	有益な情報をシェアすることで、保育士としての興味・視野を広げる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	評価対象内容ではない。	
授業方法	2部構成:情報シェア+実践英語練習 <ul style="list-style-type: none"> ・インプット(入力)とアウトプット(出力)を同時に毎回繰り返す。 ・机上だけでなく体験的な学びを多用する。 ・全体練習・グループ練習・ペアワークなど、多様な形で練習する。 ・チャンツ・歌など、英語の音源を多用する。 ・テキスト以外に、絵カード・手札カードなどを多用しながら楽しく練習する。 			
授業計画	1 講義要綱 1部:コミュニケーションKeys 保育現場での英語教育について/ 保育関係(者)の英語名称 2部:Hello Song/英語であいさつ 自己紹介表現① 幼児の為の英語表現練習① 誉め言葉			
	2 1部:パーバル・ノンパーバルコミュニケーション 2部:自己紹介表現(ミニブック作成)② 幼児の為の英語表現練習② 誉め言葉・励ます言葉 絵本・英語の歌			
	3 1部:幼保英語検定 フォニックスってな～に?① 2部:フォニックス練習① 自己紹介表現練習③+発表 幼児の為の英語表現練習③ 公園編(単語レベル) 絵本・英語の歌			
	4 1部:Halloweenについてのお話 2部:フォニックスの練習② 初対面英会話練習① 幼児の為の英語表現練習④ 公園編(文レベル) 絵本・英語の歌			
	5 1部:世界のLunch+世界の幼稚園 2部:初対面英会話練習② 幼児の為の英語表現練習⑤ 食事編(単語レベル) 絵本・英語の歌			
	6 1部:Multiple Intelligence(多重知能理論) 2部:初対面英会話練習③ 幼児の為の英語表現練習⑥ 食事編(文レベル) 絵本・英語の歌			
	7 1部:英語圏で働く保育士さんの声 2部:初対面英会話練習④ 幼児の為の英語表現練習⑦ トイレ・身支度編(単語レベル) Show and Tell 絵本・英語の歌			
	8 1部:トイレのお話し 2部:初対面英会話練習⑤ 幼児の為の英語表現練習⑧ トイレ・身支度編(文レベル) 絵本・英語の歌			
	9 1部:なし 2部:初対面英会話練習 口頭試験 Show and Tell自己練習(待ち時間)			
	10 1部:子供の幸福度ランキング 2部:幼児の為の英語表現練習⑨ その他の表現(単語/文レベル) Show and Tell 内容作成+練習			
	11 1部:Christmasのお話 2部:幼児の為の英語表現練習⑩ その他の表現 + 総復習 絵本・英語の歌			
	12 1部:なし 2部:筆記試験 Show and Tell 練習			
	13 1部:世界幸福度ランキング 2部:絵本読み聞かせ大会(グループ内) Show and Tell 発表(グループ内)			
	14 中国語			
	15 韓国語			
必須テキスト	English For Use in Nursery Schools			
参考文献				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当、長年に渡り英語教室運営。北区外国語教育アドバイザー。アルクこども英語・小学校英語関係出版物執筆協力。読売KODOMO新聞「やってみよう!」共同監修。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	40 %

2023年度 講義要綱

科目	必修 1単位 講義		講師	真砂 雄一
授業概要	保育者として、自身の体力の維持増進を図ると同時に、様々な運動の特性を知り、運動技能の向上を図る。子ども達が楽しいと思える運動遊びとは何かを考え、展開するための理論や技術を学ぶ。			
授業目標	・様々な運動を通して、子ども達に運動の楽しさを教えることのできる素地を養う。 ・基礎的な運動やスポーツ種目を体験することで、身体づくりのための体力を養う。			
到達目標1	子ども達に運動の楽しさを教えることのできる素地を習得し、身体づくりのための体力を養うことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技参加の意欲・積極性・協調性(40点)、リズム試験(30点)	
到達目標2	子どもの発育発達に沿った運動遊びについて理解し、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークでの貢献度(10点)、実践発表(20点)	
授業方法	「からだ」を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって自ら健康や体力に配慮し、それらを保持増進していくために、各種スポーツやレクリエーションスポーツを实践し、運動遊びの計画立案等、様々な形の学習を体験する。 対面授業は1回目からすべて7階 A71教室にて行う。 *社会情勢や進行状況に合わせて内容や順番を適宜変更する。			
授業計画	1 ガイダンス、からだほぐし 2 球技① 3 身体表現 4 運動会種目 5 体力テスト(オンライン) 6 球技② 7 リズム・鬼ごっこ 8 球技③ 9 球技④ 10 運動遊び実践の計画立案作成/グループ決め 11 有酸素運動(オンライン) 12 運動遊び実践① 13 運動遊び実践② 14 運動遊び実践③ 15 運動遊び実践④/リズムテスト			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	授業中に紹介する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。専門分野:幼児体育、身体表現、健康科学			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	30% %
	他者と関わる力	30% %	専門的知識・技術	10% %

2023年度 講義要綱

科目	情報機器の操作		必修 1単位 講義	講師	酒井 澄
授業概要	情報に関する知識、情報機器操作の基礎知識を身につける。				
授業目標	情報社会の中でどう生きていくかを考えます。 Office (Word、PowerPoint、Excel) の基本、インターネットの知識、映像の保育活用の方法、ナレーション(本の読みかた)などを身につけます。				
到達目標1	インターネットの光の部分と影の部分を知り、情報社会の中で自分がどう生きるか認識する。Officeなど、基本的なパソコン操作ができるようになる。保育現場の映像の活用の仕方、撮影の仕方や、ナレーション(読み聞かせ)の基礎技能を身につける。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	試験50pt、授業への取組45pt、出席5pt。 試験は、情報の知識です。 パソコン操作の苦手な人がいますが、これにより評価が下がることはありません。 苦手な人でもパソコンが使えるようになる努力を評価します。		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	パソコン授業は学校のパソコンを使用していますが、自分のパソコンの持ち込み可能です。Macもフォローします。 学校のパソコンはパソコン内に作ったデータを保存できません。 授業が次の週に続くとき、途中の工程を保存するために自分のUSBメモリなどを使い保存して下さい。				
授業計画	1 一人ひとりのコンピュータに対する理解度を確認し、Wordの基礎から始めます。 2 Word,2 3 Word,3 4 PowerPoint,1 5 PowerPoint,2 6 PowerPoint,3 7 Excel.1 8 Excel.2 9 Excel.3 10 Excel.4 11 インターネットの光と影,1 12 インターネットの光と影,2 13 本の読み聞かせ(ナレーション技術) 14 試験 15 保育現場での、映像の活用や撮影記録の仕方。				
必須テキスト					
参考文献	インターネットの光と影ver.6/北大路書房				
担当教員の専門分野等	1974年より映画テレビの制作会社勤務。職種:プロデューサー 担当作品:風の谷のナウシカなど。 2004年より映像制作会社を起業。職種:ビデオディレクター&カメラマン。内容:保育や企業などの記録やプロモーションなど。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2023年度 講義要綱

科目	子ども家庭支援論		必修 2単位 講義	講師	前川 洋子
授業概要	家庭という視点から支援のあり方を理解する。家庭生活を取り巻く様々な社会的状況について把握し、問題の所在や支援方法を学ぶ。社会福祉の視点も含み、家庭支援の基本的な知識と専門性について学ぶ。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 				
到達目標1	家庭支援を基盤に保育士の行う相談等の意義と資源の活用、関係機関との連携を説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、理解度確認の小テスト課題(30点)		
到達目標2	ニーズに応じた多様な支援の展開と家庭支援の現状、課題を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)		
授業方法	講義型 ICTを活用した理解度チェックとフィードバックを行う。 地域の子育て家庭支援策のレポート提出と発表を行います。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 1.オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性 2 2.家族システムと家庭 家庭機能の低下 3 3.保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 4 4.保護者との相互理解と信頼関係の形成 5 5.保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 6 6.支援における保育士の基本的態度 7 7.子育て家庭の抱える課題の理解と支援家庭の状況に応じた支援 8 8.地域の資源の活用と自治体・関係機関との連携・協力 9 9.子育て家庭の福祉を図るための社会資源 10 10.国策・自治体の子育て支援策及び子ども家庭支援に関わる法律 11 11.多様な支援の展開と関係機関との連携 12 12.保育所等を利用する子どもの家庭への支援 13 13.地域の子育て家庭への支援 レポート発表1 14 14.要保護児童等及びその家庭に対する支援 レポート発表2 15 15.子ども家庭支援に関する日本の現状と課題 世界の子育て支援国際比較より 総まとめ 				
必須テキスト	松本園子、永田陽子他『子ども家庭支援論』ななみ書房 2021年				
参考文献	谷田貝公昭 監修 和田上貴昭 他編著 『子ども家庭支援論』一藝社 2020年				
担当教員の専門分野等	教育カウンセラーとして子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員。大学通信教育テキスト『子ども家庭支援論』『特別支援教育』他、『保育の心理学演習ブック』ミネルヴァ書房他出版				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	40 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科目	保育者論 必修 2単位 講義	講師	三島 秀晃	
授業概要	保育所保育指針に基づき、保育者としての役割、職務内容を理解したうえで計画的かつ、実践的なスキルを身に付ける。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割と倫理的配慮について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 			
到達目標1	1. 保育所保育指針に基づき、適切な保育指導計画案をたてられるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内課題である指導計画の立案と提出(20点)、グループワークによる発表と役割分担、(10点)、机上の整理、質疑応答の有無などの授業態度(20点)	
到達目標2	保育指導計画案、保育者の役割などを踏まえた実践的な教材を計画的に作成できるようになる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	視覚教材の作成(20点)、グループワークによる発表と役割分担、(10点)、机上の整理、質疑応答の有無などの授業態度(20点)	
授業方法	「保育所保育指針解説」、「幼稚園教育要領解説」を基盤に作成されたパワーポイント資料を使う講義方式と、実際に体を動かしたり、教材を作ったりする演習方式。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(シラバスの確認) 2 保育者の役割(1) 保育所保育指針解説に示されている保育者の役割について 幼稚園教育要領解説に示されている教師の役割について 3 保育者の役割(2) 子どもたちが遊びこむための具体的な指導方法について 4 エピソード記述演習(1) エピソード記録の記入方法について 5 エピソード記述演習(2) 映像資料を見て行う、エピソード記述の実践 6 指導計画の必要性(1) 保育における指導計画の必要性について 7 指導計画の必要性(2) 指導計画案の記述方法について 8 指導計画案の必要性(3) 指導計画案の記述演習 9 指導計画案の必要性(4) 指導計画案の記述演習 10 教材を使った、主体的・対話的で深い学びの実践演習(1) 視覚教材を作成し、その教材の実践方法を具体的に計画する 11 教材を使った、主体的・対話的で深い学びの実践演習(2) 視覚教材を作成し、その教材の実践方法を具体的に計画する 12 教材を使った、主体的・対話的で深い学びの実践演習(3) 視覚教材を作成し、その教材の実践方法を具体的に計画する 13 家庭や地域社会との連携、子育て支援 保育所保育指針解説に示されている、地域との関わりや、子育て支援について 14 カリキュラム・マネジメント カリキュラム・マネジメントの実践方法について 15 まとめ 質疑応答 自身が身につけた力を客観的に理解する方法について 			
必須テキスト	「保育所保育指針解説」厚生労働省			
参考文献	幼稚園教育要領解説 授業内に紹介(授業計画各回ごとのパワーポイント資料を紹介)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。公立保育所勤務3年、私立幼稚園勤務15年大学勤務3年。 幼児教育における「特別支援教育」、「特別な支援を必要とする幼児と周囲の子ども、その両者の保護者の関係性」について研究。 幼稚園や保育所における、「教育課程」や「指導計画案」について、研究。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %

2023年度 講義要綱

科目	子ども家庭支援の心理学 必修 2単位 講義		講師	東郷 結香
授業概要	様々な福祉施設の実習経験から、各現場の「実際の支援/実践」の様子、「支援の視点」「支援の特徴」等、学びをまとめて発表し、他者と共有する。子ども、子育てをめぐる現状や、多様な支援の在り方への理解を深める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。 			
到達目標1	自らが実習した現場の実践や、支援特徴についてまとめ、発表することができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの参加姿勢(25点)、貢献度(25点)、発表(20点)	
到達目標2	自他の発表から学び、自らの考えや適性、自らが目指す支援者像について考察できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	各発表後の振り返りシート(15点)、学期末まとめシート(15点)	
授業方法	発表資料、コメント作成を伴う講義受講			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明) 2 グループワーク(各自の経験、グループ内共有) 3 グループワーク(発表に向けて) 4 グループワーク(発表資料の作成) 5 グループワーク(発表資料の作成) 6 発表① 7 発表② 8 発表③ 9 発表④ 10 発表⑤ 11 発表⑥ 12 発表⑦ 13 後輩への発表 14 ゲストスピーカー等(支援の実際) 15 まとめ 			
必須テキスト	特になし			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	25 %

2023年度 講義要綱

科目	保育内容演習・健康		必修 1単位 講義	講師	松森 照幸
授業概要	健康な心と体を育て、自らの健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の基礎と5領域の中での健康の意味や、他の領域との関連しあいながら、子どもの成長につながっていることを理解する。また、子どもの発達過程、自立に必要な基本的生活習慣を学ぶ				
授業目標	<p>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</p> <p>2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。</p> <p>3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</p> <p>4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p>				
到達目標1	・自分が常に保育の現場に立った時を想定し、健康とは何かを理解し実践力を身に付けることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、提出物とミニテスト(20点)による総合評価		
到達目標2	・子どもの心身の発達について、知識を得、健康に関する理解を深めることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、提出物とミニテスト(20点)による総合評価		
授業方法	保育所保育指針の健康のねらいと内容を理解し、健康とは何が大事かを考え学び、基本を身につける。				
授業計画	<p>1 ガイダンス※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります。／子どもの健康について</p> <p>2 領域「健康」のねらいとは、</p> <p>3 領域「健康」の内容とは①</p> <p>4 領域「健康」の内容とは②</p> <p>5 領域「健康」の内容とは③／子どもの安全、健康に対する管理と教育</p> <p>6 領域「健康」の内容とは④</p> <p>7 子どもの遊びとは</p> <p>8 水遊び、砂遊び、遊びの中で育む生活習慣／他の領域との関係</p> <p>9 子どもの心身の発達について①</p> <p>10 子どもの心身の発達について②</p> <p>11 子どもの安全、健康に対する管理と教育</p> <p>12 基本的生活習慣①</p> <p>13 基本的生活習慣②</p> <p>14 基本的生活習慣③</p> <p>15 基本的生活習慣④</p>				
必須テキスト	保育所保育指針				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布します。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年保育現場に勤務し、保育現場に携わる。 現在は幼稚園、保育園で幼児体育講師として勤務 ・ハッピー運動会楽しさいっぱい種目集、案、監修				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

2023年度 講義要綱

科目	保育内容演習・人間関係		必修 1単位 講義	講師	中山 利彦
授業概要	保育所保育指針及び同解説書を用い、5領域「人間関係」の保育の内容、ねらいについて保育現場の実践例を参照しながら、同領域に関して保育士として理解しておかなければならないことを重点的に習得する。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。 				
到達目標1	保育所保育指針5領域「人間関係」の内容が理解できている。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容の理解を確かめるレポート(30点)		
到達目標2	おとなと子どもの関わりから子ども同士の関わりへ向かう保育の方法がわかる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業中のテキスト音読等による授業への貢献度(20点)、保育実践に関する理解度を確認できるレポート(30点)		
授業方法	毎回、パワーポイント資料とテキストを用いて講義。授業の最後に理解度チェックレポートの記述。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 これから学ぶ保育内容「人間関係」の土台となる保育の目標、方法、環境について。 2 子どもの権利条約、児童福祉法、そして幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力他。 3 生命の保持と情緒の安定。乳児保育における「人間関係」理解の前提。 4 コミュニケーションの積み重ねで情緒的な絆が形成される。 5 様々な人たちとの関わり(人間関係)を子どもがもちたくなるような援助の仕方。 6 自立心を育て、人と関わる力を養う。 7 保育士等の仲立ちにより、他児と関わる。 8 温かく見守るとともに、応答的に関わる保育とは。 9 集団的な遊びや協働的な活動。 10 他の人々と親しみ、支え合って生活する。 11 友だちと積極的に関わりながら共感し合う。 12 ルールを守ると友だちとの遊びが楽しくなる。 13 「けんか」、「お手伝い保育」他。 14 「ごっこ遊び」による「人間関係」のつくり方。 15 見守られながら、子どもたちが他者と関わる力を身につける保育の仕方とは。 				
必須テキスト	保育所保育指針解説(平成30年3月厚生労働省編)、藤森平司著「見守る保育」(学研)				
参考文献	全国私立保育連盟編「コミックで発信★保育に活かす子どもの権利条約」(エイデル研究所)				
担当教員の専門分野等	23年間、認可保育所、認定こども園にて園長、副園長として現場勤務。現在、保育所型認定こども園新宿せいが子ども園副園長。東京都福祉サービス第三者評価者、東京都保健福祉財団保育理論講師。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科目	保育内容演習・環境		必修 1単位 講義	講師	
授業概要					
授業目標	<p>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</p> <p>2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。</p> <p>3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</p> <p>4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p>				
到達目標1			到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		
到達目標2			到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法					
授業計画	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>13</p> <p>14</p> <p>15</p>				
必須テキスト					
参考文献					
担当教員の専門分野等					
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%	
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%	

2023年度 講義要綱

科目	保育内容演習・言葉	必修 1単位 講義	講師	吉田 裕子、笠原 麻衣子
授業概要	発達に合わせた言葉遊びの種類、言葉がけを学ぶ(吉田) 認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当9コマ)			
授業目標	<p>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</p> <p>2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものとの関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。</p> <p>3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</p> <p>4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p> <p>・乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する。乳幼児が絵本に触れる為の具体的な取り組みについて理解する。・保育、教育の現場における絵本の意義について理解する。(認定:「絵本と出会う①」「絵本と出会う②」笠原麻衣子)</p> <p>・子どもの興味について理解する。絵本以外のメディアを知る。(認定:「子どもの心をとらえるもの」細江幸世)</p> <p>・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術①」飯田有美)</p> <p>・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する。(認定:「絵本の世界を広げる技術①」飯田有美)</p> <p>・「おはなし会」について理解する。「おはなし会」のプログラム作成及び運営にかかわる手法を体得する。(認定:「おはなし会の手法①」近藤千春)</p> <p>・「おはなし会」のテクニックについて理解する。「おはなし会」のテクニックを体得する。(認定:「おはなし会の手法②」高田ちとせ)</p> <p>・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係わる情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか)</p> <p>・各年齢期の子どもの発達と絵本の関わりの特徴について理解する。(認定:「絵本各論③」笠原麻衣子)</p>			
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	発達を理解し、それに合わせた言葉がけや遊びを習得する	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	評価50(内訳:出席12、態度20、テスト18)	
授業方法				
授業計画	<p>1 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う①」担当:笠原麻衣子</p> <p>2 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う②」担当:笠原麻衣子</p> <p>3 【認定絵本士養成講座科目】「子どもの心をとらえるもの」担当:細江幸世</p> <p>4 オリエンテーション 0歳児の言葉の発達と愛着形成</p> <p>5 1.2歳児の言葉の発達、わらべうた</p> <p>6 3.4歳児の言葉の発達、伝わる言葉1</p> <p>7 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術①」担当:飯田有美 課題提出</p> <p>8 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術①」担当:飯田有美</p> <p>9 【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法①」担当:近藤千春 課題提出</p> <p>10 5.6歳児の言葉の発達、伝わる言葉2</p> <p>11 まとめと言葉遊び実践</p> <p>12 まとめ補足とテスト</p> <p>13 【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法②」担当:高田ちとせ 課題提出</p> <p>14 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか</p> <p>15 【認定絵本士養成講座科目】「絵本各論③」担当:笠原麻衣子</p>			
必須テキスト	【認定絵本士養成講座科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	<p>吉田裕子</p> <p>○笠原麻衣子:赤ちゃん絵本、ブックスタートなど地域での育児支援活動や家庭での絵本の読み聞かせの現状に精通した者・保育、幼児教育現場及び学校現場における子どもと絵本の関りの現状に精通した者・子どもの知的、社会的発達と絵本の関りに関する専門的知識を有する者</p> <p>○細江幸世:絵本作家、子ども向け番組作成従事者、児童文化に精通した者</p> <p>○飯田有美:図書館や学校などにおいてブックトーク及びビブリオトークの実践経験をもつ者・絵本検索に係るIT技術及び図書館レファレンスサービスの双方について専門的知識を有する者</p> <p>○近藤千春:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者</p> <p>○高田ちとせ:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者</p> <p>○井上まどか:あらゆる分野の絵本について精通しており、図書館または書店等において絵本の提案を行っている実践経験を持つ者</p>			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科目	保育内容演習・表現 必修 1単位 講義	講師	二木 秀幸	
授業概要	子どもの発達を考えながら、保育に関わる表現活動全般を取り上げる。あそびを通して「表現することの楽しさ・喜び」を自ら感じ体験する。そしてそれらを子どもに伝えられる保育者になるための理論と実践を演習する。			
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。			
到達目標1	様々な表現の研究を軸に、あそびの中から表現する術を理解し、実施することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点) + 作品発表(20点)	
到達目標2	子どもの表現の育ちと保育者の役割について理解し、子どもの表現活動に対する指導方法を実施できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点) + レポート(20点)	
授業方法	課題に対し個人やグループで作品づくり・発表・振り返りを繰り返す演習形式で進行します。また毎回、様々な歌を歌います。			
授業計画	1 オリエンテーション 授業内容とポイントの解説/“あそび”“表現”を考える 2 子どものうた(1) いろいろな歌をうたう・手あそび・歌あそび 3 子どものうた(2) 保育における歌を考える・子どもに歌を教えるには/まとめ 4 様々な素材を使った表現(1) 詩を素材としてあそぶ(グループワーク) 5 保育における“ごっこあそび・劇あそび・劇”を考える 6 様々な素材を使った表現(2) 詩を題材とした作品づくりの実践(グループワーク) 7 様々な素材を使った表現(3) 詩を題材とした創作作品の発表/まとめ 8 様々な素材を使った表現(4) 動画の鑑賞を通して 9 様々な素材を使った表現(5) 絵本を素材としてあそぶ(グループワーク) 10 様々な素材を使った表現(6) ボディー及びヴォイスパーカッション・体を使った表現 11 総合的な表現(1) ミュージカル作品を素材とした作品の創作/素材の研究・準備 12 総合的な表現(2) ミュージカル作品を素材とした作品の創作/ストーリー・演出の研究 13 総合的な表現(3) ミュージカル作品を素材とした作品の創作/リハーサル 14 総合的な表現(4) ミュージカル作品を素材とした作品の創作/発表会 15 振り返りと総まとめ/表現活動の指導方法			
必須テキスト	『6訂版 歌はともだち』教育芸術社			
参考文献	『ポケットいっぱい』など音楽等の授業で使用している歌の本			
担当教員の専門分野等	専門分野:音楽(声楽・作曲)表現 研究テーマ:音楽表現・劇あそび・演劇表現。児童劇に役者として15年間携わっていました。 表現教育やワークショップ、舞台演出等も行っています。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	40 %

2023年度 講義要綱

科目	障害児保育 必修 2単位 講義		講師	前川 圭一郎
授業概要	近年、「しょうがい」についての考え方が大きく変化してきている。そのような「しょうがい」の考え方は、「ダイバーシティ」、「SDGs」などにも共通して含まれることであり、基本的人権とも密接に関わっている。本科目では、「しょうがい」とは何かということを軸に、保育現場における支援の在り方について考えていく授業となる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。 			
到達目標1	・「しょうがい」とは何かを考え、個々の発達の状況に応じた保育を行うための必要な知識について説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(授業終了時に実施するリアクションペーパー・小テスト、20点)+定期試験(30点)=合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。	
到達目標2	・「環境と個の相互作用という観点から、しょうがいを捉え」適切な支援について考え説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(授業内で実施するグループワークにおける参加、20点)、発表・レポート(30点)	
授業方法	対面、または、オンラインによる授業において、講義とグループワークを通して学びを深めていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ・本授業のガイダンス ・「しょうがい」についての歴史的編成について ・マジョリティとマイノリティについて ・正常と異常について 2 ・特権 ・隠れたカリキュラム ・マイクロアグレッションとは 3 ・自閉症スペクトラム(ASD)の理解 4 ・自閉症スペクトラム(ASD)の支援 5 ・注意欠如多動症(障害)ADHDの理解と支援 6 ・限局性学習障害の理解と支援 7 ・知的障害の理解と支援 ・ダウン症の理解と支援 ・出生前診断について 8 ・視覚障害の理解と支援 ・聴覚障害の理解と支援 9 ・肢体不自由の理解と支援 ・病弱について 10 ・環境と個の相互作用の視点から支援を考える 11 ・合理的配慮とは何か ・基礎的環境整備とは何か 12 ・応用行動分析学に基づく早期の支援について 13 ・課題分析について ・スモールステップに基づく支援について 14 ・インクルーシブが誤用される時 ・真のインクルーシブに向けて「環境との相互作用」の視点から 15 試験 			
必須テキスト	授業でその都度配布を行う			
参考文献	保育学用語辞典(秋田ら2019)・特別支援教(猿渡,前川ほか)・			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 保育所へのコンサルテーション・発達障害児の支援方法を研究。 『保育学用語辞典』、『段階別でわかる！発達が気になる子のやる気を引き出す指導法』等を分担執筆。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2023年度 講義要綱

科目	子育て支援		必修 1単位 講義	講師	今泉 岳雄
授業概要	保育の専門性とは何かを理解し、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援や、支援機関や支援対象の特性・支援について、具体的に学んでいく。				
授業目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。				
到達目標1	保育士の行う保護者に対する子育て支援の内容や方法、また保護者と関わる時に表出されやすい自分の性格特性について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表15点 (2)レポート35点		
到達目標2	子育て支援の対象となる保護者や子どもの特性に応じた支援方法や子育て支援を行っている機関の種類について具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表15点 (2)レポート35点		
授業方法	講義、ディスカッション、ロールプレイ、映像視聴、事例検討				
授業計画	1 保育の特性、保育士の業務、保育所における子育て支援、保護者との信頼関係形成のための保育者の態度について学ぶ。 2 エゴグラムを通して自分の特性を理解する。 3 認知行動療法やプロセスレコードの体験を通して自分を知る。 4 保護者や家庭の現状、保護者の状況に配慮した個別の支援、支援のプロセス、エコマップの作成等について学ぶ。 5 コミュニケーションのロールプレイ体験と保護者支援のためのカウンセリングの知識について学ぶ。 6 カウンセリングをロールプレイで体験するとともに、カウンセリング内容を記録する。 7 保護者支援に必要な情報をどのように得て支援に結びつけるかを学ぶ。 8 子育て支援機関にどのようなものがあるか、またその役割や連携について学ぶ。 9 どのような要因が保護者・保育者間のトラブルになるか、その予防や対応について考える。 10 どのような要因が保護者・保育者間のトラブルになるか、その予防や対応について考える。 11 保護者が発達障害、神経症、うつ病、境界性人格障害、統合失調症を抱えている場合の理解と支援について学ぶ。 12 知的障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害に等について理解し、支援について学ぶ。 13 分離不安障害、緘黙、強迫障害、心的外傷後ストレス障害、うつ病、チック、吃音、転換性障害、指しゃぶり等についてその背景と支援について学ぶ。 14 目標の設定、支援内容や方法の計画、支援の実践、記録、評価について学ぶ。 15 今まで学んだ内容のポイントを確認する。				
必須テキスト	「子育て支援」 公益財団法人児童育成協会監修 西村重稀他編集 中央法規				
参考文献	授業中に適宜紹介、配布				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員の授業」臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。神奈川県立の児童相談所、児童自立支援施設、日赤医療センター、東北文教大学(教授)などに勤務。「心理学のエッセンス」(日本評論社)、「ハッピー育児セラピー」(学習研究社)、「パパにもわかる子育ての本」(実業之日本社)、他出版。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %	

2022年度 講義要綱

科目	保育実習 I - 2 (施設)	必修 2単位 外部実習	講師	実習指導授業担当
授業概要	各現場の指導プログラム、計画に従う			
授業目標	1. 児童福祉施設、障害者支援施設の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や、子ども・利用者との関わりを通して対象者への理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、各現場の支援について総合的に理解する。 4. 現場における支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。			
到達目標1	1. 多様な福祉施設の役割と機能、支援者の業務内容、職業倫理について説明できる 2. 支援計画に基づいた観察、理解、関わりを深め、自ら考察して記録にできる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	「実習態度」「対象者の理解」「職員としての資質」の観点に基づく、現場職員及び実習指導担当教員による総合評価	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	各施設職員の指導の下、現場で実務経験をする			
授業計画	1 ①現場職員による支援実践を観察し、活動に参加することを通して、支援全般について知る ②子ども・利用者の観察、関わりを通して、対象者への理解を深める ③実習記録を作成し、現場職員の指導を受ける 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

2023年度 講義要綱

科目	保育実践演習		必修 2単位 演習	講師	なかむらしんいちろう
授業概要	本科目は、自身が興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を行う。保育者は、子どもとその家庭に関する専門家として、保育士資格取得後も常に自己研鑽に努める姿勢が求められる。本科目は、それを見据え、保育に関する様々な物事に目を向け、幅広い視野を持って主体的に関わる姿勢を養うことを目的とする。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。 				
到達目標1	①興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を通じ、保育に関する物事に主体的、意欲的に関わることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	レポート等提出物(30点)+発表(30点) 提出物は期限を守ること 発表への参加は必須事項である		
到達目標2	②他者に伝える力を身に付けると同時に、他者の意見を取り入れながら問題解決する方法を身に付けることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	少人数のグループディスカッションへの参加、発表者に対するリアクションペーパーの提出など授業への意欲的な姿勢(40点)		
授業方法	これまでの自らの学習を各自が振り返り、グループ討論や個別指導をまじえ、自身が興味のあるテーマについて調査をし、まとめ、発表をする演習中心の授業である。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション ～保育実践演習の進め方～ 2 テーマの設定① ～関心を明確にする～ 3 テーマの設定② ～テーマを決める・関心の深め方～ 4 研究のスタイル ～調査・分析・考察の方法～ 5 中間発表に向けての個別指導及びレジュメの作成① 6 中間発表に向けての個別指導及びレジュメの作成② 7 中間報告及びディスカッション① 8 中間報告及びディスカッション② 9 中間報告を踏まえ、最終発表に向けた課題の点検、個別指導、レジュメ作成及び発表準備① 10 発表に向けての課題の点検、個別指導、レジュメ作成及び発表準備② 11 発表① 12 発表② 13 発表③ 14 発表④ 15 発表⑤及びレジュメの取りまとめ、総評 				
必須テキスト	特に指定なし 適宜資料を配布する				
参考文献	特に指定なし 適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	専門分野:造形				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科 目	子どもと遊び 選択必修 2単位 講義		講 師	岡田 春佳
授業概要	現場ですぐに活かせるように、毎回保育の実践事例や保育実技を織り込みながら保育について学び、保育の専門性や保育のおもしろさについて深めます。また連絡帳の書き方レッスンを導入し子どもを見る視点・記録の取り方について身に着ける事が出来ます。一人で考えるのではなく、授業内ではディスカッションの場を積極的に設けます。授業を通して保育の専門性の向上と保育者にとって必要なコミュニケーションスキルを身に着けます。また、手遊びや歌遊び、絵本の読み聞かせなどの実技も身に着ける事が出来ます。			
授業目標	本授業では保育について専門的な視点を養っていくとともに保育を展開していくための保育者としての資質と指導法を身につけることを目標とします。			
到達目標1	保育の専門性を理解し、子どもの主体的な遊びについて、保育者の関わりと子どもの姿について説明することが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容レポート(50%)授業への取り組み(50%)	
到達目標2	保育事例についてのグループ討議を通して、自分の意見を伝える事が出来る。具体的な保育の場面を想定し、環境構成や保育士の関わりについて説明、実践することが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	講義内容レポート(50%)授業への取り組み(グループ討議への貢献度・発表)(50%)	
授業方法	アイスブレイクタイムの導入で意見の出やすい授業を目指します。保育事例の検討ではグループディスカッションを中心に行います。保育実技(手遊び、絵本紹介)では実際に身体を動かし実技を身に着けます。			
授業計画	<p>1 アイスブレイク ・自己紹介・授業の進め方について・保育とは ・講義テーマ「こどもの心を探る1」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>2 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「こどもの心を探る1」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>3 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「連絡帳の書き方」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>4 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「子どもの心を探る2」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>5 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「絵本の読み聞かせのポイント」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>6 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～主体性を育む遊び1～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>7 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～主体性を育む遊び2～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>8 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～主体性を育む遊び3～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>9 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～ていねいな保育～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>10 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～乳児保育～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>11 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「子どもが遊びたい環境構成」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>12 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「主体的な行事の作り方のポイント」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>13 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「アートが育む子どもの感性」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>14 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「子どもの遊びと記録の取り方」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>15 まとめ 「保育の専門性とは、おもしろさとは？」</p>			
必須テキスト	「まあせんせいの『みんなで「育ち会う」遊び大百科』(仮)			
参考文献				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。公立保育園での12年間の保育士経験があり、より現場に近い内容で授業を構成しています。現在は学校法人菊地学園(理事長:菊地政隆)に在職中。主任・園長の経験もありますので、授業以外でも、キャリアアップや就職相談も可能です。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	30% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養実習 選択必修 1単位 講義		講 師	深川 卯子
授業概要	離乳食・幼児食を実際に作ることによって、固さ、大きさ、バランスの良い献立などを理解する 食育の実際について事例(計画作成)を行いながら学ぶ			
授業目標	子どもに対して年齢に応じた食べ物を実際に見たり触れたりすることを実際に行うことで理解し保育現場で対応できる 子どもや保護者に対して実際に食育が行えるようになる			
到達目標1	調乳ができる 子どもに応じた適切な離乳食や幼児食が判る	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実習のプリント提出(調乳・離乳食・幼児食・アレルギー 対応食)70点	
到達目標2	食育計画(子どもと作る軽食)を立てる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	計画書と実習 プリント提出30点	
授業方法	実習を通して離乳食や幼児食を実際に見て分かるようにプリントにそって授業 献立を考えたりアレルギー食の実際を経験出来るように実習を通して学ぶ プリントは提出すること(返却します)			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の説明・進め方/1年時の復習 2 調乳実習/栄養計算の説明(プリント配布) 3 栄養計算(各自)質問タイムあり/離乳食の説明 実習について 4 離乳食実習(初期・中期・後期・完了期) 5 離乳食振り返り 幼児の献立(zoomでのグループワーク) 6 幼児食の献立/主菜に合わせて副菜を考える(グループで) 7 幼児食実習 8 幼児食実習振り返り アレルギー食について 9 アレルギー対応食実習1 10 アレルギー対応食実習2 11 食育の計画としての軽食(zoomでのグループワーク) 12 軽食作りの計画書完成 13 食育として 子どもと作る軽食実習 14 軽食実習の振り返り(各班の発表含む) 15 実習を通して学んだこと(振り返りとして)/各自発表も含めて まとめ プリントはこの日までに提出/前回までに提出の分はこの日に返却 予定 			
必須テキスト	プリント配布による			
参考文献	1年時の教科書 食品成分表			
担当教員の 専門分野等				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科目	合唱と合奏		選択必修 2単位 講義	講師	上田 亜津子、金淵 洋子、木下 裕子、佐藤 季里
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについて、どのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら工夫しながら、コードによる簡易伴奏も含め、より良い支援の方法を身に付けていく。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容とねらいを理解した上で、「音楽遊び」で学んだ子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	保育実習Ⅱに向けて、生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2～3曲はいつでも弾き歌いすることが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(50点)、実技試験発表(50点) 実技試験課題については1か月前には担当講師と個別に検討を始め、ピアノ曲、弾き歌い各1曲(または弾き歌い2曲)を準備すること。		
到達目標2	グループレッスンにおいて、季節や環境、生活、行事、人間関係等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみを知り、互いに聞き合い高め合う協働の喜びを体験し、自ら主体的に表現することが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(50点)、実技試験発表(50点)		
授業方法	1年次の「音楽遊び」と同じく、クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、④ピアノを中心とした個人レッスンと⑥合唱および歌遊びのグループレッスンとを行う。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(④⑥に分かれて45分で入れ替わる) 2 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥合唱等のグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥1年次にマスターした子どもの歌のレパートリーの確認。 4 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥コード伴奏等の基礎知識(五線紙は配布します。) 5 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥現場で役立つ声の出し方(呼吸法と発声法) 6 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥童謡・唱歌等の子どもの歌教材研究 7 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥3～4名のグループによる指導法研究と発表 8 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥指揮法基礎 9 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥2声・3声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥リズムを含む歌遊びの指導法研究 11 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥リズム楽器を楽しむ 12 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥弾き歌いの指導法研究 13 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥個人レッスンによるアドバイス 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導(④⑥共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(④⑥共)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子の歌』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤフォンorヘッドフォン”をお持ちください				
参考文献	日本児童教育専門学校編「はじめての弾き歌い」				
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リズム指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

2023年度 講義要綱

科目	保育教材研究 選択必修 2単位 講義		講師	なかむらしんいちろう
授業概要	これまで獲得した基礎的な造形技法や、実習における実践的視点を踏まえ、多種多様な道具材料を工夫して課題制作を行う。 また、現場での子どもの造形活動における認識を深めるために、自ら「失敗を恐れず遊びの中で想像力を養う子どもの造形活動」を体験する。 これにより、造形活動の指導のポイントや子どもの表現活動の援助について学ぶ。			
授業目標	子どもの創作活動を追体験し、想像力を広げる。将来の現場実践のため、教材について視野を広げる。			
到達目標1	毎回参加し、保育教材としての造形の学びを理解し、授業時間内に実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	真摯な授業参加(常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 30点	
到達目標2	<座学> 幼児の絵画造形を理解し説明できる。 <実技> 多種多様な教材による造形技術を習得し、遊びを援助できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品提出(作品を撮影しteams等に画像を提出、締切日厳守)60点 +その他 ①周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等社会的マナー ③自己管理能力等 10点	
授業方法	1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出)* 社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更 ★オンライン授業予定			
授業計画	1 1.9/25~・前提講義:講師挨拶、授業受講のルール 2 2.10/2~・お面づくり 3 3.★10/9~・絵画の援助:講義:レポート提出:苦手な子への援助等 オンライン週 4 4.10/16~・衣装づくり:ポリ袋 5 5.10/23~・アルミホイル:粘土のように自由な形を作る 6 6.10/30~・ボンドでオーナメント:ボンドに絵の具を混ぜ、形を整える 7 7.11/6~・レッジョの座学①:段ボールスタンプ 8 8.11/13~・レッジョの座学②:段ボールと自然物でフォトフレーム 9 9.★11/20~・感触を楽しむ:講義:レポート提出:泥遊び等 オンライン週 10 10.11/27~・フィンガーペイント 11 11.12/4~・障子紙の染め 12 12.12/11~・布を染める 13 13.12/18~・イラスト練習:季節の絵 14 14.1/15~・ゲーム遊び:手作り双六 15 15.1/22~・屋外活動:自然物で絵画制作			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
担当教員の専門分野等	笠原麻衣子:「実務経験のある教員による授業」に該当。長年にわたって保育所で勤務。 なかむらしんいちろう:絵本作家、イラストレーター			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅡ	選択必修 1単位 講義	講 師	鈴木 直樹
授業概要				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法				
授業計画	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅡ 選択必修 1単位 講義		講師	廣田 篤憲
授業概要	現場で役に立つ実践的な課題を制作し、造形の技法を身につけその能力を高め指導者としての能力を養い身につけ、絵画造形の技法をより高めるように習得する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の造形教育の背景について理解し、育みたい「資質・能力」を知り、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を目標として、その基礎的な造形能力・表現力および指導方法を身につける。 2. 造形における教材・素材等の活用及び作成と、造形教育の環境の準備構成、指導現場で展開できる技術と表現力を実践的に習得する。 3. 子どもが生活や造形遊びにおいて体験していることを捉え、造形教育で留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場면을想定しながら、環境の構成、教材等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。 			
到達目標1	到達目標1. 子どもの造形活動について理解し、造形能力の発達段階に応じた造形指導ができるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、制作した作品への取り組み(40点)	
到達目標2	保育現場を考慮し、子どもの造形能力に応じた、造形環境を準備し造形遊びの内容を構成することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品の制作の指導方法の理解(20点)、造形環境の準備内容の把握(20点)	
授業方法	準備された画材・素材を使用して造形作品を制作しつつ、現場での指導方法を考え習得する。多種多様な表現方法を学び身につける。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育における造形表現の意味、造形表現の基礎知識(色彩、画材などの基礎知識)、幼児の造形教育のねらいと方法(教材、素材の活用などについて) ・教科書:P.112~P.119 2 画用紙とクレヨン・クレパスを使って、虹色の形を作ろう(指を使って画材の特性を知る) ・教科書:P.58 3 紙コップを使ってタコを作る(紙コップを色画用紙で巻く方法) ・教科書:P.80 4 カップ麺の容器を使ってカメを作る ・教科書:P.94 5 画用紙をZ折りにして、展開して変化することを楽しむ絵を描く ・教科書:P.140 6 ペットボトルを使って輪投げのピンを作り、新聞紙で輪投げの輪を制作する。 ・教科書:P.182 7 パチック(はじき絵)、油性のクレヨンと水彩絵の具の性質を生かして ・教科書:P.56 8 にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する ・教科書:P.147 9 発想を形にする:自由なイメージでの制作 ・教科書:P.136 10 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのオモチャを制作する:その1. 和紙ハガキを使ってマーブリング制作 ・教科書:P.117、P.126 11 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのオモチャを制作する:その2. マーブリングを施した紙を使って魚の工作、竹ひごなどを使って釣り竿作り ・教科書:P.177 12 色画用紙を使ってアニマルフェイスのペーパークラフト ・教科書:P.144、P.145 13 色画用紙を使って、動くペーパークラフトの制作、その1。 ・教科書:P.142、P.145 14 色画用紙を使って、動くペーパークラフトの制作、その2。 ・教科書:P.142、P.145 15 色画用紙を使って、動くペーパークラフトの制作、その3。 ・教科書:P.142、P.145 			
必須テキスト	幼児造形の基礎 萌文書林 著者:樋口一成 編著			
参考文献				
担当教員の専門分野等	多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業 中・高等学校美術科教諭を経てイラストレーション、機械式腕時計内部の鉛筆細密デッサン、立体作品、ペーパークラフト、アーマチュアの制作、アートディレクションなど			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	50% %

2023年度 講義要綱

科目	保育実習Ⅲ	選択必修 2単位 外部実習	講師	実習指導授業担当
授業概要	各現場の指導プログラム、計画に従う			
授業目標	1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 実習における自己の課題を理解する。			
到達目標1	1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能、利用者ニーズと支援の実際を理解する 2. 個人の支援計画を理解し、多様な専門職との協働、業務内容、職業倫理を理解する 3. 現場における学びを記録、考察し、自己課題を明確化できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	「実習態度」「対象者の理解」「職員としての資質」の観点に基づく、現場職員及び実習指導担当教員による総合評価	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	各施設職員の指導の下、現場で実務経験をする			
授業計画	1 ①現場職員による支援実践を観察し、活動に参加することを通して、支援全般について知る ②子ども・利用者の観察、関わりを通して、対象者への理解を深める ③実習記録を作成し、現場職員の指導を受ける 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

2023年度 講義要綱

科目	保育実習指導Ⅱ 選択必修 1単位 講義		講師	笠原 麻衣子
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰについて、グループディスカッション・個人面談・実習体験発表を通じて振り返り、評価・反省に基づいて自己課題を理解し必要な学習に取り組む ・保育実習Ⅱで臨む部分実習、責任実習のための準備を行う 			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な話し合いや発表に積極的に参加し、学んだ知識を活かして自己学習に取り組むことができる。 ・授業内の課題を期日内にきちんと提出することができる。 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、提出物(20点)	
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・責任実習、部分実習のために保育教材の製作および指導案の立案が出来る。 ・模擬保育の実践発表を行うことが出来る。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発表・模擬保育(40点)、テスト(20点)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習(グループワーク)および実技・発表 ・保育実習Ⅰの振り返りとともに模擬保育の実践、責任実習指導案を完成させるための自己学習 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業オリエンテーション(授業概要・目標・評価方法・持ち物等の説明) 2 「主活動の指導計画」立案練習 3 「1日の指導計画」立案練習 4 実習課題下書き・個人票下書き 5 模擬保育に向けて①(作って遊ぶ活動の選択/ねらい) 6 保育現場職員とのワークショップ 7 保育実習Ⅱに向けて 健康管理・個人票・実習課題 8 模擬保育に向けて②(教材準備) 9 模擬保育に向けて③(導入の意味) 10 模擬保育に向けて④(材料の配布・説明・遊びの展開) 11 試験「責任実習指導計画」 12 模擬保育実践1 13 模擬保育実践2 14 模擬保育実践3 15 保育実習Ⅱに向けての心構え 			
必須テキスト	保育実習指導1aで使用した「フォランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」			
参考文献	授業中に適宜紹介			
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	5 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2023年度 講義要綱

科目	保育実習指導Ⅲ		選択必修 1単位 講義	講師	東郷 結香
授業概要	2年次で経験した保育所実習、施設実習の振り返りと反省をし、次回の実習に向け課題を明確にして準備を整える。				
授業目標	1. 施設における保育者の役割、さらには保育者の専門性について理解する 2. 対象の状態を適切に理解し、対応、関わり、支援計画の立案ができるよう学ぶ 3. 自らの課題を明確にする				
到達目標1	保育実習Ⅰについて整理し、他者に発表を通して伝えることができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実習報告(20点)、対象者の理解(30点)、支援特徴の整理(30点)		
到達目標2	保育実習Ⅲに向けた、自らの目標、課題の整理ができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	自らの目標、課題の言語化(20点)		
授業方法	・個々人の実習報告をもとにディスカッション、指導を行う ・各施設の現場の先生をお招きした講義や、現場見学等、体験的に学ぶ				
授業計画	1 授業概要、授業の進め方、目標、評価等の説明 2 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる 3 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる 4 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる 5 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる 6 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 7 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 8 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 9 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 10 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 11 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 12 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める 13 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める 14 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める 15 実習準備の仕上げ。 実習への備えを万全なものとする。				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業内で適宜示す				
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	5 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	